

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

伝統に培われた「文武両道」や「自主自立」の精神を大切にし、民主的・文化的で、世界の平和と人類の福祉に貢献する有能な人間を育成することをめざす。

(1) 個人の尊厳を重んじ、正義と平和を愛する個性豊かな人格を育む。

(2) 基礎学力の充実を図り、興味・関心、能力・適性に応じた学習を通じて多面的な判断力を育てるとともに進路実現の力を養う。

(3) 積極的な行動力と旺盛な意欲(学習、研究、活動)を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 「わかる授業」「鍛える授業」をめざし、授業改善に取り組む。
- ア 授業規律の徹底とともに積極的な学習態度を育てる。(学校教育自己診断において「授業満足度」に対する肯定的回答率 75%をめざす)
- イ 共通履修科目の指導を通じて、普通科総合選択制高校の理念にもある基礎・基本となる学力の充実を図る。
- ウ 生徒の進路希望、興味・関心、能力・適性をもとに普通科総合選択制高校の理念に沿った教育課程を実施し、自ら学び考える力を育てる。
- エ 選択授業を充実を図り、生徒の興味・関心や学ぶ意欲を高め進路実現の力を育てる。(エリア学習の満足度 80%以上をめざす。)
- オ 授業ノートの取り方、話しの聴き方、宿題や予習・復習をする習慣の定着を図るなどきめ細かく指導を行う。
- (2) 「使える英語プロジェクト事業」の活動を通して、英語のコミュニケーション能力の向上を図るとともに英語指導法の研究等を行う。
- ア コミュニケーションのツールとして英語を学び、「積極的に英語を使う」学校づくりを推進する。
- イ 国際理解教育を推進するとともに、各種検定試験の資格取得を通じて英語運用能力の向上をめざす。

2 キャリア発達の支援

- (1) 同窓生や地域人材、施設を活用し、生徒の「志」、「夢」、「希望」をはぐくみ、「目標」を持てるように育てる。
- (2) 川高講座(エリア特別講義)や分野別説明会、エリア選択・科目選択ガイダンスなど体験的活動を取り入れた通じた組織的・計画的キャリア教育を行う。(普通科総合選択制アンケートにおいて「普通科総合選択制の高等学校で学んで良かった」に対する肯定的回答 90%をめざす)

3 「自主自立」精神の育成

- (1) 卒業後の社会で活躍できるための社会人基礎力の充実を図る。
- ア 「あいさつ」の徹底を図る。
- イ 「服装・頭髪」「時間管理」「集団生活のマナー」等、自立した行動の基礎になる生活規則の徹底を図る。
- ウ 円滑なコミュニケーション能力を身に付けられるように育てる。(普通科総合選択制アンケートでの肯定的回答率 75%以上をめざす)
- エ プレゼンテーションや発表の取り組みを通じて対人関係能力の向上を図る。(普通科総合選択制アンケートでの肯定的回答率 70%以上をめざす)
- (2) 豊かな人権感覚の育成をめざし、体験的な取り組みを取り入れる。
- (3) 防災・非難訓練などを通じ、防災意識の向上や緊急時の自主的行動力の向上を図る。
- (4) 薬物乱用やいじめ等の防止のため、関係諸機関と連携し取り組みを進める。

4 「文武両道」の精神の育成

- (1) 学校行事や部活動の活性化を図る。
- ア 生徒が主体的に企画・立案・運営する体育祭や文化祭により、達成感や満足感ある生徒会活動をめざした取り組みを行う。
- イ 学年行事やホームルーム活動において生徒自らが運営し活動できる取り組みを進める。(学校教育自己診断における満足度 80%をめざす)
- ウ 部活動の入部を促進し、部活動の活性化を図る。部活動の活性化により生徒自身の向上心や協調性・協力性等の教育効果を高める。
- (2) ボランティアなどの社会貢献活動を推進する。(地域清掃活動への参加者数、延べ 300 名以上をめざす)

5 学校全体の課題を解決するための組織的活動の徹底と教員力の向上

- (1) 府の進める高校改革における改編を見据えて、普通科総合選択制の充実・発展とともに生徒が成長できる本校の将来像を「将来構想委員会」を中心に議論し、校内の取り組みの充実と発展のための検討を推進する。
- (2) 学校課題のスピーディーな共有化を図り、その解決に向けて分掌や学年・委員会が組織的に取り組む。
- (3) 教員の「人権意識の向上」をめざし研修の充実や校内体制の確立を図る。
- (4) 「授業力向上」を図るため、授業の公開(校内外)を推進する。さらに指導教諭や首席がリーダーとなる授業研究協議会を設定する。
- (5) ミドルリーダーや若い世代の教員の育成につとめる。特に若い教員については管理職・首席・指導教諭を含め、組織的な指導を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>「学校に行くのが楽しい」という質問に対しては、生徒の約 74%、保護者の約 80%が肯定的な回答をしている。一方、「授業に満足している」「授業は分かりやすい」に対しては生徒の約 57%、保護者の約 50%が肯定的な回答をしており、学校生活の重要な部分である授業に関する質問には概ね 50%台と低い水準であった。</p> <p>これに対応する教員の質問項目を観ると、「生徒一人ひとりがわかるように授業を工夫している」に対して 81.6%が肯定的な回答をしており教員の取組み意識とは差がある結果となっている。今年度実施した生徒学習状況アンケート結果とともに教員自身の工夫や取組みを、分析する必要がある。本年度、学校教育自己診断とは別に実施した、生徒学習状況アンケートの結果を考察・検討し、教科や学年、学校全体で生徒の学力向上・教員の授業力向上について、議論を深めていきたい。</p> <p>また、生徒への質問項目「分からないことについて、先生に質問しやすい」「進路指導について、学校は知りたい情報を適切に知らせてくれている」が 53.3%、59.5%と低い水準である。学習の取り組みサポートやモチベーションアップへの取組みの必要さがうかがえるようだ。</p> <p>生徒指導の面では、「学校生活についての先生の指導には納得できる」については、昨年度より 3ポイントほど上がり 62.7%となった。昨年度より導入した「入室許可制度」により遅刻数が大幅に減少し、制度自体も定着し効果も上がっていることが、その一因かもしれない。</p> <p>学校生活については、生徒への質問項目の「学校行事に満足している」が 72.5%、「部活動に満足している」が 65.5%、「文化祭、体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」が 74.0%となっており、保護者の回答も約 80%が肯定的である。</p> <p>行事などを中心として、「学校」は楽しいのだが、授業に対する満足度は決して高くないという現状をふまえ、「生徒たちの学習意欲を高め学力や体力の増進を如何に図るか」ということを、今後とも教科・学年を中心に検討・実践していく必要がある。</p> <p>まったく別の観点だが、「教室や廊下の清掃が行き届いている」に対して、生徒 46%、保護者 53%の低い水準であり、教育環境整備としての清掃に課題があると思われる。</p>	<p>第 1 回 (6/27)</p> <p>【生徒指導】○昨年度、入室カード制(遅刻)を取り入れ、成果が上がった。</p> <p>【進路指導】○昨年度「先輩と語る会」は伝統校ならではのいい取組みだと思う。</p> <p>【広報】○学校説明会や中学校訪問等、中学校・地域との連携をいかに広げるかが課題。</p> <p>○普選のアンケートから、この学校を選んだ理由が「普通科総合選択制の学校だから」という回答が少ない。大阪市内の南の方から「来たい」と思われるような独自性を出してほしい。</p> <p>【学習】○授業のレベル(質)を上げて、生徒が「しんどいけど頑張った、頑張ったから成果が上がった」と思うような取り組みをしていくことが課題。</p> <p>○家庭学習の時間は増えているのか? 宿題の量は? 学校の授業以外でどれだけやっているかが問題。</p> <p>○作業的な課題・宿題や、学校の休憩時間にできてしまうようなものではだめ。</p> <p>○次回までに生徒の学習に関する実態を調べておいてほしい。</p> <p>第 2 回 (10/28)</p> <p>【学習】○職員会議などでこの状況を知らせて話し合うことが大切。</p> <p>○教員の生徒に向かう時間がないことについて、その実態を厳しく問われた。</p> <p>○学習について生徒が困っていないということは、教師の学習指導に関係することになるということも指摘された。また、成績評価の部分である平常点の割合についてもその議論の状況を尋ねられた。</p> <p>○生徒の状況は、頭では分かっているが、行動が出来ないという実態が見えている。改善の手立てを具体的に示す。何をどうするのか具体的な方法を示すことが必要になる。</p> <p>○携帯電話に関わる指導の重要性も指摘された。</p> <p>第 3 回 (1/30)</p> <p>【学校教育自己診断について】</p> <p>○教員用アンケートで肯定的な回答が 30%台の質問項目が幾つかある。(組織的な取組み面での項目)裏を返せば 70%が否定的ということ。どう改善するかが今後の課題と指摘された</p> <p>○「校内で有効な議論がなされている」という質問の肯定的回答が非常に低い(昨年の半分以下)という点を指摘され、学年会議や担任会、教科会議を活性化すべきではないかと指摘を受けた。</p> <p>【学習実態アンケートの結果について】</p> <p>○結果についての教科会議、教員研修を実施し、今後の対策を報告した。</p> <p>○これからの取組みが大切で着実に進めていくよう要請された。</p> <p>【先輩と語ろう会】 同窓会としてもさらに協力していくと報告を受けた。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「分かる授業」「鍛える授業」をめざし、授業力向上の取り組み ア 授業規律の徹底と生徒の積極的な授業参加態度の指導を行う。 イ 普通科総合選択制の趣旨に沿った科目の更なる充実を図る。 ウ 基礎学力の向上 エ 言語活動の充実および国語学習の充実 オ 「授業力」の向上を目的とした取り組みを実施する。	(1) ア 全ての授業で、授業規律の徹底を図る。授業開始の挨拶や授業準備を徹底する。 ・新入生オリエンテーションや各学年授業の指導の中で聴く姿勢や授業ノートの作り方の指導を行う。 ・教科等で授業満足度の肯定的回答率の低下について、原因と改善を検討する。 イ 自由選択科目について、生徒の興味・関心や能力・適性に合った科目の設置・充実を将来構想委員会および教科会、カリキュラム委員会を中心に進める。 生徒の進路希望に対応して選択科目での学力向上を図る ウ 共通履修科目における指導目標の共有化と達成のための指導プログラムを教科で検討し実施する エ 1年生の国語授業で少人数展開授業を実施する。 オ 授業公開週間の設定を複数回行い、その時々研究協議会を実施する。	(1) ア 学校教育自己診断の「授業満足度」肯定的回答を65%に。(H25:53.6%) 授業関連質問の肯定的回答5%アップ。 ・活動実施状況確認。 イ 普通科総合選択制の趣旨と本校の将来を見据えての教育課程再検討を実施する。 ・学校教育自己診断での「教育課程が良く整備されている」10%アップ。 ・進学、就職における実績の向上。 ウ 実施状況を確認。 エ 少人数展開授業の実施 オ 授業公開と研究協議会の実施。	(1) ア 肯定的回答率は、57.2%にとどまった。昨年度よりも向上はしているが、上位学年での率が低く今後は、この課題を克服したい。(△) イ 普通科総合選択制の趣旨に沿って、次年度から「中国語初級」「韓国朝鮮語初級」を選択科目に加え開講することとなった。(○) ・学校教育自己診断における肯定的回答率は、3.4%のアップにとどまった(△) ・就職については、昨年同様、学校斡旋就職100%を確保した。進学実績は、3月末の段階で未定者が29名となった。 ウ 2学期以降に生徒学習調査をもとにした校内議論が始まり、教科指導の目標とともに生徒の学習意欲や学習時間の向上に対する取り組みをスタートしている。(△) エ 1年生の国語総合で少人数授業を実施。(○) オ 公開授業は2回実施できたが研究協議会は1回にとどまった。(○)
2 キャリア発達の支援	(1)同窓生や地域人材、施設を活用 ア 同窓会と連携した講演会等の実施。 イ 生徒の能動的な取り組みに重点を置いた進路学習を行う。	(1) ア 同窓会組織である「江風会」と連携し、進路意識を高める会を継続・実施する。 イ これまでの進路指導プログラムを再検討し、生徒が能動的に取り組むように改善工夫する。	(1) ア 「先輩と語ろう」実施後のアンケートでの肯定的回答率80%をめざす。(第1回:78.2%) イ 普通科総合選択制アンケート「エリア学習の満足度」を5%アップ。 ・学校教育自己診断の「進路指導関係質問」肯定的回答を70%以上に。	(1) ア 肯定的な回答率は、73.5%と昨年度を下回った。実施に対しての教員側の十分な理解と生徒と先輩のコーディネートについて今後の課題がある。(△) イ 満足度は、昨年度70.8%だったが、今年度は、65.8%となった。エリアに関する選択科目やその内容について更に検討が必要と思われる。(△) ・関連項目4つの平均は、64.3%と目標に達しなかった。選択科目ガイダンスや進路実現への情報提供、進路相談の充実が課題と言える。(△)
3 「自主自立」精神の育成	(1)社会で活躍できるための社会人基礎力の充実を図る。 ア あいさつの徹底 イ 遅刻指導、服装指導の強化 ウ 生徒発表やプレゼンテーションの取組推進。	(1) ア 相互の挨拶の徹底指導を図る イ 時間の管理を徹底するために導入した、「入室カード」による指導を強化する。 ウ 授業や学年行事、ホームルーム活動に発表やプレゼンテーションの取組を積極的に取り入れる。 ・新入生に対して暗唱スピーチを実施する。 ・プレゼンテーションの取組を各科目で進める。	(1) ア 実施状況確認。 イ 遅刻者総数を年間3000件以下に。1年生は800件以下。(H25:3370件) ・学校教育自己診断の「協力して生徒指導に当たっている」肯定的回答10%アップ。(H25:58.5%) ウ 普通科総合選択制アンケートの「関係項目」肯定的回答60%以上に。	(1) ア 学期の初めや行事の前後など節目で生徒指導部から発信して強化を図った。 イ 3月末段階で2467件(昨年3370件)、1年生572件となり目標が達成できた。(◎) ウ 「プレゼンテーション能力が身に付いた」という質問への肯定的回答率は、53.6%(H25:52.8)だったが、「コミュニケーション能力が身に付いた」に対する回答は、67.7%(H25:50.5)と大きく向上した。(○)
4 「文武両道」の精神の育成	(1)学校行事や部活動の活性化を図る。 ア 生徒運営のHR活動充実。 イ 生徒運営の企画運営する学年行事の実現。 ウ 1年生の部活動加入率向上。 (2)社会貢献する活動を推進する。 ア 学校周辺や地域清掃活動への生徒参加。	(1) ア LHRやSHRを生徒自身の手で行わせ、相互教育効果を高め、その自浄能力向上を図る。 イ 全学年で「合唱大会」や「球技大会」等を企画し、生徒が案作りから当日の運営までを行えるように指導を行う。 ウ 校内での活動意欲を高め、学習面とともに教育効果の期待できる放課後部活動に積極的参加を促し生徒指導面、技術指導面、精神的支援、学習活動の支援等多面的な指導を行えるようにする。 (2) ア 新大阪駅前の清掃活動に部活動単位での参加や生徒会や部活動などで地域貢献できるように促進する。	(1) ア 実施状況確認。 イ 学年行事の生徒運営状況の確認。 ・学校教育自己診断の「学校行事満足度」75%以上。(H25:70.2%) ウ 学校教育自己診断の「部活動満足度」65%以上。(H25:61.9%) ・1年生加入率75%以上。 (2) ア 参加状況の確認。 ・参加者数300名以上。	(1) ア 体育祭、文化祭、各学年行事などの取組みが生徒の手で行えるようになってきた。(○) イ 学校行事満足度は、72.5%で若干のアップとなった。(△) ウ 部活動満足度は、65.5%で目標を達成できた。(◎) ・1年生の加入率は、65%だった。昨年よりも後退している。(△) (2) ア 新大阪アメニティーソサイエティーの取組みで駅前の清掃ボランティアにクラブ単位で参加した。また、夏季休業中に硬式野球部が校地周辺を10日間ボランティア清掃した。参加者総延べ人数は450名以上となった。(◎)
5 学校全体の課題を徹底と教員力の向上	(1)分掌や学年・委員会が組織的に取り組む ア 分掌・学年等の年間目標設定と評価の実施。 イ 生徒の成長をポイントにした分掌再編に取り組む (2)高校生活支援の取り組み充実 ア 高校生活支援カードの活用充実	(1) ア 学校経営計画や年度の重点目標等に沿った分掌や学年の目標設定を行い、中間時期の点検と共に取組状況の総括を行い、学校協議会で報告する。 イ 将来構想委員会を母体として、育てる生徒像を基にそれに沿った校務分掌再編を検討し再編を実施する。 (2) ア 高校生活支援カードの導入に関わり、生徒の高校生活充実のために保護者、生徒との相互理解を図るとともに生徒の成長を主眼に置いた高校生活や学習に対する支援の在り方と共に人権教育の充実を図る。 ・担当組織の設置 ・保護者及び生徒懇談会の実施と充実	(1) ア 学校教育自己診断の「分掌や学年に関する項目」肯定的回答10%アップ。 イ 分掌再編の実施 (2) ・実施状況確認 ・学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」75%以上に。(H25:71.1%) 「先生は、いじめや私たちが困っていることに真剣に対応してくれる」肯定的回答5%アップ。	(1) ア 分掌や学年の連携についての肯定的回答率は、60.5%であり昨年並みだった。(△) イ 生徒の成長やその実現のための指導が効果的になるように分掌を再編できた。(◎) (2) ・入学時点で新入生全員のカードからピックアップし、支援の必要な生徒に対して支援チームをつくり関係諸機関や保護者と連携して円滑に高校生活を送れるようにした。2学期のさらに見直しを進め、チームを追加して取り組めた。(○) ・「学校へ行くのが楽しい」は生徒74.4%、保護者80.2%と昨年を上回った。「いじめや人権に関する相談や指導については」生徒64.25%、保護者73.0%で保護者についてはアップした。(○)